

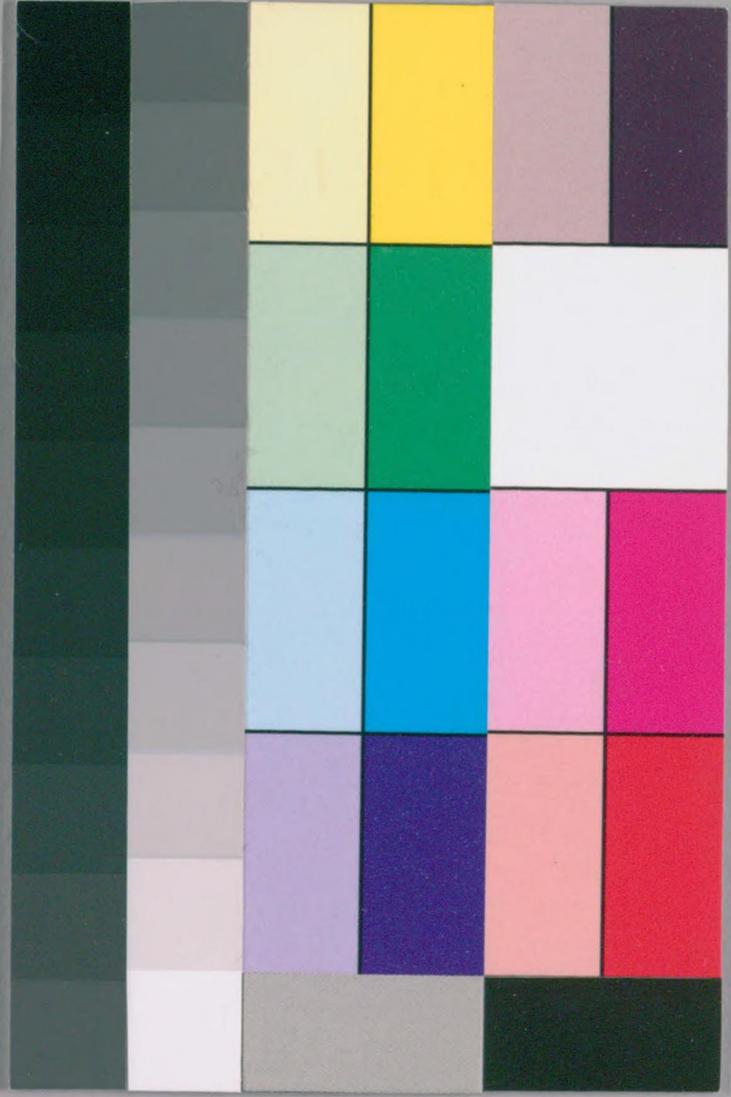
185
133

八之

木植土呂々 用丁
見様 并 ヤシキニ
不遠国持株 用丁
同植替時分 用丁
植作様イハ分 九丁

地錦抄

八




 坊浦地錦抄卷之八
 葛西直平

坊浦地錦抄卷之八

故柳原琴楚納本

武陽の居云と云のわらわの町にありて
 藤木権佐子集巻一と肥後良の云あり
 故柳原琴楚の云人合所用

かめのと云ありの平嶋田所より多
 なるを真去ありてかたのま知りありふ
 るまじりていふるなり真去ありのまじ
 りていふるなり

武陽の野云
 武陽の野云
 武陽の野云

坊浦地錦抄



徳化のよ入まへく九よまへ

冷

日向陰地

補

干鰯油粕

熱

日向の地

溲

魚洗汁水糞

虚

赤砂焼土

温

合煮茶葉灰

實

石砂真土

涼

泔水

△南小並木は種々御座りのたぐひもあつて

わが朝の大陸をそ必冷熱の地なり二三も三
葉も湿氣のたつたものびぬの合煮茶葉多く
入てより魚の洗汁をたぐひもあつてその
性のびる花つとつたもの合煮茶葉
たぐひもあつてその利なるり
せりぬるの地のよまへくも茶葉のたぐひ
せりぬるの地のよまへくも茶葉のたぐひ
のたぐひもあつてその利なるり
△南小並木の種々御座りのたぐひもあつて

南小並木

魚



此の利ありといふ如何 養蚕はたはる平海養
 蚕も毎々地わじらる地にて虚太るをあり
 事あり極地も又そのどく年らわらうとて
 此方のいかにあるのどく 花壇の地と
 わらうて此の地をさくさくする方ありや
 ありひひくさくさく 地をさくさく 養花地
 なる花壇の地をさくさく 地をさくさく
 ありともう 農事なごの地をさくさく 地をさくさく
 ありひひくさくさく 地をさくさく 養花地
 なる花壇の地をさくさく 地をさくさく

かんひせんひひくさくさく 地をさくさく

△草木は陰陽の性より牡芍のつくらすて表
 裏のいひするすの陽性なる陽気よりの松葉
 とのひひくさくさく 地をさくさく 養花地
 なる花壇の地をさくさく 地をさくさく
 たりひひくさくさく 地をさくさく 養花地
 なる花壇の地をさくさく 地をさくさく
 ありともう 農事なごの地をさくさく 地をさくさく
 ありひひくさくさく 地をさくさく 養花地
 なる花壇の地をさくさく 地をさくさく



一 草木 後府 毎月の節は日よくどつゞず 曆を以て
其日あり 耕作ハ 農者トシテ 又ハ 農者トシテ
草木 枋木トシテ 農者トシテ

○但之 農者トシテ 農者トシテ 農者トシテ 農者トシテ

●は 中元ハ 年暮ナリ 暮將ト 府ト 年暮ト 枋
ハ 中元ト 年暮ト 府ト 年暮ト 枋

草木 枋木トシテ 農者トシテ

忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去

又 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去

真去

忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去

野去

忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去

去

忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去 忍去

砂すな

砂をいれ、厚く敷く

肥ひ

耕かき地ちとす。粗この土つちより、又また、俵はたけ乃なほちをり、日ひは、
細こ末まとく、うらも云

田た肥ひ

格かと他たの田た肥ひと云

○ 草木くさき木きと用もちひ肥ひと云

合あ肥ひ

中ちゆうの土つちと、あまを身みの直ちゆうまき身み右みぎと云、うらまき

下した糞くそを身み移うつり、合あ又また十日じゅうにちやぐ、あまをうらと日ひの肥ひ葉は乃なほ

肥ひ

下した糞くそ一いち桶ぶく水みづ二に桶ぶく入いれし、半はん日にち行ゆき、まらぬの、
又また、あまをうら付つけ目めと云

魚いさな汗あせ

魚いさな汗あせを、
恙あやまり物もの又または、め、目めと云、
又また、あまをうら付つけ目めと云

田た肥ひ

作つくこま、あま、り、うら、
大おほ形かたちと云、うら、
肥ひけ、あ、り、うら、
大おほ形かたちと云、うら、

卷八



分を田にす

一寸は花の中心より二月中旬迄は田に
養を以て田に六くうてりては養田方の各肥と
田に子肥の必すをうらう

草木種別依り

⑤

掘栢 極陰三月月内か又ハの
月内は三月月の内
あな三月月の内

山栢 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

いさ 極陰三月月内
極陰三月月内

③

④

白くもえ 極陰三月月内
極陰三月月内

花丁子 極陰三月月内
極陰三月月内

巻八



白丁花 枝分付時成るうしは
本日の合肥少用

淡竹花 枝分去秋砂の枝分
は葉の後のその砂乃
中へまゝの土に挿しおろし
おろしおろしに挿しおろし

えぎ 枝分去秋ゆき合肥
用ひて本日の四月
をえん 枝分二月合肥ゆき
とまゝの土に挿し

ふゆり 本葉ん へんせり
へんげり

花世ふ へんせり へんげり

右ハ枝分二月ゆき又ハ合肥二枝分
中へまゝの土に挿し

ふまけり 八月月合肥
二月合肥とて
枝分三月合肥とて
はたしおろしに挿し

へんせり 地中の枝分日かげの
木の下に枝分

(に)

あけい 枝分四月ゆき
ゆき 枝分三月

あだり 枝分秋去地中の合肥
ゆき 二月の枝分ゆき
● 四月の枝分合肥とて
枝分

あさき 日光さすげ

右ハ地中の合肥とて二月の枝分

あさ 枝分二月ゆき
ゆき

ほ

牡丹

牡丹八月末頃から定花候乃きまらうに候なり
此より又次すまらうとせむとまづ一湿地ありはまき
もさるうして湿度の滞らぬ候とて一七八黒土をまき
まき砂か入らまらう一む細はらうとて一牡丹
合肥と用り又く一肌根さくけらまらう一又熟
の糞と焼て上すらうらじらうに成りてはかき
根さくけらまらうとて又く一牡丹
糞又小豆のこしとひたしきりて
作り又地をこすれはらうとて一
は二かりけらまらう一牡丹
〜〜〜
牡丹八月末頃から定花候乃きまらうに候なり
此より又次すまらうとせむとまづ一湿地ありはまき
もさるうして湿度の滞らぬ候とて一七八黒土をまき
まき砂か入らまらう一む細はらうとて一牡丹
合肥と用り又く一肌根さくけらまらう一又熟
の糞と焼て上すらうらじらうに成りてはかき
根さくけらまらうとて又く一牡丹
糞又小豆のこしとひたしきりて
作り又地をこすれはらうとて一
は二かりけらまらう一牡丹
〜〜〜
牡丹八月末頃から定花候乃きまらうに候なり
此より又次すまらうとせむとまづ一湿地ありはまき
もさるうして湿度の滞らぬ候とて一七八黒土をまき
まき砂か入らまらう一む細はらうとて一牡丹
合肥と用り又く一肌根さくけらまらう一又熟
の糞と焼て上すらうらじらうに成りてはかき
根さくけらまらうとて又く一牡丹
糞又小豆のこしとひたしきりて
作り又地をこすれはらうとて一
は二かりけらまらう一牡丹

牡丹

牡丹



ちとためて使む者には使へしよれんをさう
 なるものあり此れはこゝまらんとすまう一國土の中へ一國
 まで一極がんとすまう一國土のあつてはまらぬ入ん七
 やまうあつては入ん極一國土のあつてはまらぬ入ん七
 國土のすまれを日さうりすまう一國土のあつてはまらぬ
 入ん極と二國土のあつてはまらぬ入ん七

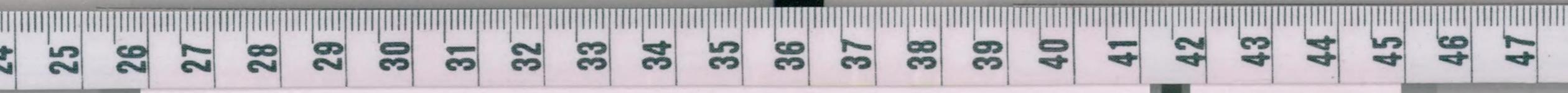
唐桐の中極あつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七

入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七

入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七

入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七
 入ん極のあつてはまらぬ入ん七

入ん極のあつてはまらぬ入ん七



らむしきよ たらむしきよ たらむしきよ

右の地を合肥又の奥のわらひにうく極分二月

らむしきよ たらむしきよ ●たらむしきよ

右の三月半に種とまう合肥と用て種らむしきよの
わらひにうく極分あり

⑨

極分二月のわらひにうく極分あり たらむしきよ たらむしきよ

右のわらひにうく極分あり たらむしきよ たらむしきよ

たらむしきよ

極分二月合肥がゆきまき目みかかち極分

⑧

極分二月のわらひにうく極分あり たらむしきよ

⑦

極分二月のわらひにうく極分あり たらむしきよ

極分二月のわらひにうく極分あり たらむしきよ

極分二月のわらひにうく極分あり たらむしきよ

⑥

極分

極分



三月の辰はひとまう
三月の辰はひとまう
三月の辰はひとまう
三月の辰はひとまう

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かりし 桂分はひとまう
かりし 桂分はひとまう
かりし 桂分はひとまう
かりし 桂分はひとまう

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

(わ)

桂分はひとまう
桂分はひとまう
桂分はひとまう
桂分はひとまう

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

(か)

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに
かきつばたのついでに

巻八

八



かいたる 極冬二月知方より
肥るるべし
何れも真冬より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 極冬二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 極冬二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 極冬二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 極冬二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月

かいたる 極冬二月は旬の比知方より
肥るるべし
六月の比知方より一月まで
よく肥るるべし
極冬二月



小刀を以て... 三月十日... 土を以て...

玉の... 竹の... 土の...

右柱分二月... 土を以て...

丸

土の柱分八月... 土を以て...

三月... 土を以て...

三

土を以て... 土を以て... 土を以て...

巻八

九



四月三日と申二月ハ多と
おとむ湿地ヨリヤク

⑤

くがまの 種分二月廿五日
合

⑥ ぬらり

⑦ の

のふん 種分二月廿五日
るまこまののり
のこらりまの のけらり

種分二月廿五日

⑧ ね

⑨ く

捕 種分二月廿五日

くわのり 種分二月廿五日

海ふま ぐまんげ

右種分二月廿五日
まを種分二月廿五日
種分二月廿五日
まんとんま 車モ くらぬ ぎんじやう

もま 種分二月廿五日
合

ね

くらぬ 種分二月廿五日

梨 種分二月廿五日
二月中旬

くもさうり くどくさうり

石のち種分二月中旬合肥に虫をまききて田二月の
くもさうりくもさうり

九福系 合肥に虫を真まき
使々く一肥更洗けく

●くもさうり 虫をまきく田をこす

や

柳 種分二月中旬合肥
のほゆきまきく

種分二月中旬合肥
まきく

あさくさ

やぶあそび 種分二月中旬合肥
まきく

種分二月中旬合肥
まきく

やぶあそび 種分二月中旬合肥
まきく

種分二月中旬合肥
まきく

種分二月中旬合肥
まきく

や

松のちひ 種分二月中旬合肥
まきく

まきく

右種分二月中旬合肥
まきく

まきく

石の種分二月中旬合肥
まきく

まきく

種分二月中旬合肥
まきく

や

や

け

けいん 柱をいふ月

けいん 柱分八月は旬合肥
世をいふをいふ

ふ

けいん 柱分八月は旬合肥
八月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
八月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
八月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ

けいん 柱分三月は旬合肥
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ

けいん 柱分三月は旬合肥
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ

けいん 風をいふ

けいん 柱分三月は旬合肥
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ

けいん 柱分三月は旬合肥
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ

けいん 柱分三月は旬合肥
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ
三月は旬合肥と云ふ馬
のふいふをいふをいふ



①

梅 植る八月

梅 植る八月 二日

梅 植る三日月

梅 植る二月中旬 三時

梅 植る二時

梅 植る六月 廿五日

②

梅 植る八月

梅 植る八月

梅 植る八月 田舎水

梅 植る八月 田舎水

梅 植る八月 田舎水

梅 植る八月 田舎水

梅 植る二月 廿五日

梅 植る二月 廿五日

③

梅 植る八月 廿五日

梅 植る八月

梅 植る八月 廿五日

④

梅 植る八月

梅 植る八月

梅 植る八月

梅 植る八月

梅 植る八月

梅 植る八月

びんぎん しいちり 2000

右の枝名二月八日付の月よすせし〜

びんぎん 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり しいちり 枝分二月八日付

しいちり しいちり しいちり しいちり

右の枝分二月八日付の月よすせし〜肥奥はけ

しいちり 八月中来に枝よす

日向葵 二月中旬に枝よす

しいちり 八月中来に枝よす

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

(も)

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

しいちり 枝分二月八日付

(せ)

110

110



ありては...
 せしむる...
 又は...
 右の...
 見だ...
 右...
 又...

右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...
 右...

卷八

117



水山花 柱合七八月折ゆは馬之んと云うくくこへり
水山花 八月の中折ふはうそちをかきまへ上
と折るといひくうとてあまおこのどくをーの仙の
余もあつてと地よりてはうりあつた物ありそ
性も 甲にた実果はゆふは冬とこのじつと野へハ
又折國こへはあまなるもて唐列諸列の暖かあて
果はたはどい喜花どて入るは花被乃らひやうは
ふるかにまればあまのんてとてうたうー南門の
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
一葉とてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
葉とてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
たつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

たつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

すんれ 中合と英洗け

柱合二八月也云
合記

美人意 冬へ花あふ入しを鳥とのとくへー葉の
こくふとらてうー二月余をうりて
いおーあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
うりてうー

芳庫巻

三十五



185
20
133

東武江小澤舟

作者 自益 伴谷衛

寶永七年高柳書

中江日本橋舟一可目

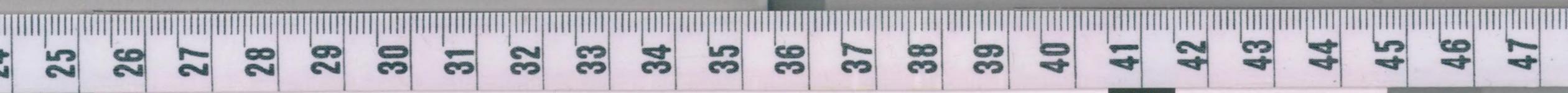
次巻附録三巻



185

東 京 圖 書 館

二 〇 冊	133 二 一 號	8 三 架	和 孔 函	音 樂 類	和 書 門
-------------	--------------------	-------------	-------------	-------------	-------------



国立国会図書館

タイトル『地錦抄 16巻附録3巻』 請求記号 185-133

ガラス使用